

授業名：絵本の読み聞かせを通して 自然や環境に対する関心を育てる

学校名：松本市立安曇小学校
学年・人数：1, 2 学年 7人、7人
日時：2022. 10. 6
講師：赤井さんのお話し会
主な活動場所：安曇小学校教室

先生のねがい・ねらい

- ・上高地学習で見てきたこと、感じてきたことを言葉で表現する力をつけたい。
- ・動植物の話や、自然の音や感触を表す擬音に触れることで、体験してきたことを言葉にする力を養うとともに、好奇心や想像力をさらに働かせて自然を感じるができるようになりたい。

事前の計画

1年生：手遊び、のはらうたクイズ、ろうそく点けて、はらぺこあおむし、ごぶごぶごぼごぼ手遊び、うんちしたのはだあれ、言葉のこぼこ、コッケモーモー、ろうそく消して終わり。

2年生：手遊び、のはらうたクイズ、ろうそく点けて、ごぶごぶごぼごぼ、うんちしたのはだあれぞうからかうぞ、手遊び、ダンゴムシ、ことばのこぼこ、よかったねネット君、ろうそく消して終わり。

当日の様子

【実施概要】 虫や植物、動物、水などを題材とした、自然を身近に感じることができる本の読み聞かせや、自然クイズ、手遊びなどを実施して頂いた。

【実施状況】



いろんな動物のうんちが出てきて楽しみながら学習しました。



様々な動物の鳴き声が出てくる絵本。一緒に鳴きながら聞いていました。



最後は代表の子にろうそくの火を消してもらいながら、みんなでお願いごとをしてお話の会が終わりました。



1時間の中にたくさんの絵本に親しみ、ことばをたくさん楽しむ子どもたちの姿が見られました。

◎ 子どもの感想

- ・うんちの仕掛け絵本が特におもしろかった。動物によってうんちの形や大きさがちがうのが分かった。
- ・ダンゴムシは、冬は仲間と集まって過ごしていることが分かった。教室でもダンゴムシを飼ってみたい。
- ・外で何かのうんちを見つけた時に「何のうんちだろう?」「鳥なら白いから違うよ。」など、絵本から得たうんちの形態についての知識について話し合う場面が見られた。
- ・そこにいるのはだれだろう?とページをめくった瞬間、虫の体の一部分が葉っぱの陰から見えただけで、すぐに「カマキリだ!」「うわ~大きい」と反応しながら、主人公の小さな虫の視点になって物語を楽しんでいた。
- ・「あの(動物の)鳴き方は違うよね。」「変だよー」と言いながら、正確な鳴き方の鳴き真似をしながらお話を聞く様子が見られた。

◎ 先生方の振り返り

- ・いろいろな植物や動物、虫、水などに関する本をたくさん読んでいただき、子どもたちの自然に対する興味が深まっていることを感じられました。お話を聞いた後、帰りがけにさっそく教室の外で石をひっくり返して、ダンゴムシを探している子もいました。
- ・のはらうたクイズや仕掛け絵本、言葉の響き、手遊びなど、想像力を働かせながら、視覚的にも聴覚的にもいろいろな感覚を使って、自然を身近に感じることができました。
- ・講師の方には、学年の実態に合わせて興味を持つことができるような内容を考えていただきありがたかったです。
- ・「ブクブク」「コポコポ」などのオノマトペを聞いて何の話か想像したときに、「水の中っぽい」と答えている様子があった。子どもたちの絵日記のなかでも「たき火がパチパチ燃えていました。」など自分の生活の中での表現も豊かになってきた。来年度からの環境学習における言語表現に活かしてけると良いと感じた。
- ・サワガニになりきった詩を聞いて、最初わからなさそうな様子だったが、「川に住んでるよ。」「横に歩くよ。」とヒントをもらいながら答えを考えている様子だった。野外でなくても、言葉だけで生き物についての生態を考えることができた。
- ・赤井さん、大島さんのお話の仕方が素敵で、子どもたちは絵本がより好きになり、「ことば」をより好きになる時間になりました。担任も読み聞かせの時間を多くとったり、上高地学習や生活科を中心にしながら全教科で体験から出る言葉の力を高めたりしたいと思います。

◎ コーディネータから

- ・現実の世界での体験はどうしても限りがありますが、絵本にはその枠がありません。絵本を通して様々な冒険することで広がる世界があると思います。読み聞かせのプロの表現力、さすがです。